編輯室内外

愛嬢の爲に香高き山百合の一束を手にして輕井澤の山莊を出て急遽歸京せられた近衞文麿公は、畑陸相の辭職と後任推擧難との爲に突如退轉の止むなきに至つた米内内閣の後の組閣に關する重臣會議に臨み、其の組閣の大命を拜するや組閣準備としての工作卽ち吉田海相の外に陸相に推薦すべき東條陸軍中將、外相に推薦すべき松岡洋右氏の荻外莊來訪を求めて國防外交の基本的動向の確立に關し凝議を遂げ然る後に閣員の推薦に着手せられた。之れ實に先例のなきことで公の用意の那邊に存するかを推知するに足る。又新政治體制未だ成らざるに先ち組閣の大命を拜せられたるに六日にして新内閣の成立を見たるのみでなく公自ら閣員交渉の任に當られたることもまた其の決意の程が察知せらるゝのである。

時代の變移の如何に力强きものがあるか今更の如くに痛感する。政黨人にあらざれば人にあらずと思はしめられた時代は最早過去の歷史となつた觀がある、今日既成政黨の幻滅の悲哀極まる慘憺たる狀態を見て千萬無量の感を生じ、目を蔽ふの外はない古池や蛙飛び込む音もなしか。地方の公事に練習せしめ施政の難易を知らしめ漸く國事に任ずるの實力を養成するを以て立憲の制に於て國家百世の基礎を立つるの根源として制度化せられたる地方自治の前途や如何政黨競爭の爲めに地方自治團體の和平攪亂せられたるの蹟を回顧すれば思ひ半に過ぐるものがある、政黨潰滅後の地方自治團體の機構活動の上に如何なる變化を來さねばならぬか之れ内務の一大問題であらう。

第二次近衞内閣に在つても前米内内閣と同じく財界人の入閣があつた、前閣員と現閣員との個人的批判は之を避くべきであるが官僚や政黨人以外に財界人を入閣せしめて親しく國民實生活上に於ての實相を施政の上に反映せしめんとする意圖に出でたるや否其の民間經濟の上に及ぼす影響、資源開發の促進策、物價安定策等如何、閣員各位の深甚なる精進を庶幾ふのみ。

個人主義自由主義の持つ國は持たぬ國となり全體主義の持たぬ國は持つ國となりつゝある大勢であると思はせらるる、持たぬ個人が持つ個人となり、持てる個人が持たぬ個人となり果つる曉が來たとすれば夫れは天は地となり地が天となつたと嘆ずる者なきにしもあらずと思ふ果して如何。

颯田齋田兩博士等の手で驚異の發聲機が發明せられ、機械から「人の聲が聞かるゝことになつた」科學の都「メトロポリス」のロボットマリアもいよ〳〵科學化し得ることとなつた。科學の進歩も驚異に値する、橋田新文相が科學と技術との振興に邁進せられんとするも寔に故あるかなだ。

實際山漁村は時局下食糧生産の維持擴充を至上命令として上あらゆる困難を克服し其使命の達成を期してあらゆる涙ぐましい精進をつゞけて居るが農林行政機構なり農村生産機構なりに時局の進展に卽應すべき何等の用意もなく態勢もない是等に對し何かの改革が斷行せられざる限り農業生産力の擴充は困難であるとの論ずるものがある、勝れたる農本主義者と稱せらるゝ石黑新農相の施政策や如何。

獨逸軍の英本土襲擊の快報を待ちつゝ淋漓たる汗を拭ふの暇もなく編輯を終る。ペンをおけばしたゝか汗の流れけり。（洮）

定價一部　五十錢
一ケ年分　金六圓

東京市麴町區霞關一丁目内務省内
發行所　社團法人　道路改良會
電話銀座(57)〇四二七

東京市世田谷區代田壹丁目七八〇
發行者　小島效
編輯者
東京市小石川區諏訪町五六
印刷所　常磐印刷所
印刷者　奈良直一